

第3回神崎中学校区適正配置地域協議会 会議要旨

日時：平成26年10月14日（火）19：00～20：30

場所：こうざき小学校1階ホール

○出席者 29名（内代理出席 2名）、欠席者 なし

1. 開会のことば

2. 会長あいさつ

3. 議 事

(1) 木佐上小学校区から報告

①地域協議会への文書について

- ・木佐上校区自治会より神崎中学校区適正配置地域協議会に対して、平成26年度末に木佐上小学校を閉校し、平成27年度よりこうざき小学校に統合することに同意する旨の文書の提出があった。尚、文書については大分市教育委員会へも併せて提出された。

②その他

- ・木佐上小学校区より、木佐上小学校の26年度末閉校に向けた取組みとして、「閉校等準備委員会」と「跡地利用等要求委員会」の二つの組織を立上げ、これまでにそれぞれ3回開催した。「閉校等準備委員会」では、閉校記念行事の開催、記念碑の建設、記念式典の開催、閉校記念品の作成などの意見が、「跡地利用等要求委員会」では、木佐上小学校閉校後の跡地、特に体育館とグラウンドの利用等について意見が出された。また、両委員会合同で教育委員会との話し合いも開催した。閉校までにあと6ヶ月しかないが、これからも二つの委員会を開催して取り組みを進めていく旨の報告があった。
- ・PTAからも、話し合いの場をもっている。そのなかで、各小学校の文化を残してもらいたいとの思いから、校歌や学校風景、卒業記念品などの文化遺産を常時観られるメモリアル教室といったものをこうざき小学校に設置してもらいたい旨の意見もだされたとの報告があった。

(2) 小中一貫教育について

①併設型小中一貫教育の概要について

- ・資料（併設型大分市小中一貫教育校 賀来小中学校の例）をもとに説明する。

<主な質疑応答>

【委員】 中1ギャップの解消という話があったが、メンタル的な強さを育てるという事で、ある程度課題を与えて乗り越えさせて教育していくというのが、自分たちのイメージなんだが、ここで言う節目とはどういった事をするのか。

【専門委員】 節目を乗り越えるというイメージではなく、卒業までの9年間、スパンが長いので中学校では中2で中だるみという言い方をするが、目標を失ったりしやすいので、短いスパン（小4、中1）で節目、節目を置いてそこで一回頑張って成し遂げることによって節目を付けようというものである。

【委員】 こうざき小に3校統合した時に初めて小中一貫教育を進めるという事か。

【専門委員】 現状、小中一貫教育を取組んでいるが、タイプとしては連携型を進めている。

賀来小中学校は併設型として校長が小学校、中学校を兼務しており1人しかいない。

1人の校長のもと運営しているので一体的な取組が行えるという利点があるという例を話ただけで、ここを必ず併設型にするという事ではない。

【委員】 1年から9年までであるが、教科書は市内の他の小学校、中学校で使用しているものと同じか。

【専門委員】 市内の他の小学校、中学校で使用しているものと同じである。英語だけは早くから実施しているが、それ以外の教科は同じ進路でやっている。

【委員】 併設型とするか、しないかという判断はどこがするのか。

【専門委員】 基本的には皆さん方と協議していく事になる。

【議長】 統合後のこうざき小学校がどういった方向性となるのか、選択肢の一つとして説明をしていただいた。

【委員】 今、説明されたものはよい事ばかりしかなかったが、デメリットな部分はないのか。

【専門委員】 これがよくないという事を報告されたものはない。ただし、他の学校と比べた時にどうかを職員に聞き取りをしたが、1点目として、先生が忙しくなり負担が重くなるということ。2点目、小1から小4までが小学校の校舎、小5、小6が中学校の校舎で生活しているので、図書館の利用やプールなどの設備の使用時に移動距離が長くなること。3点目として小4が前期のリーダーの役目をする、また中1が中期のリーダーの役目をする。小6のリーダーとしての役目がないので他の学校と比較して若干幼稚化すると言われている。今までリーダー役が小6で1回だったものが、小4、中1の2回の活躍の場となり、マイナスと考えるかは評価の仕方だと思われる。

②視察について

・大分市立賀来小中学校・神崎小学校への視察について事務局より説明する。

<質疑なし>

(3) 通学の安全性と支援について

①木佐上小学校区からの意見等

【委員】 先般、本校のPTAと市教委で個別に意見交換会を開き、通学に関することを中心に協議を行った。その中で通学に関する問題点として、通学路を実際に歩かせた場合、自宅からこうざき小まで約1時間程度かかった。その際に公衆トイレや給水施設、夏場においては暑さをしのぐ場所が全くないという通学環境が指摘され、常に誰かが駐在しているような場所もないため、非常時に助けが求められないことや、監視が不十分という防犯面での問題が挙げられた。

また、幸崎駅周辺の県道715号線及び幸崎駅南側にある踏切や歩道及び車道が非常に狭いため、通学時間帯は非常に交通量も多くバスの通行もあるために、事故の危険性が高いという事が報告された。

このような状況から、通学距離にかかわらず、希望者全員に対して木佐上小校区からこうざき小までのスクールバスを運行させていただきたい。また、スクール

バスの運用内容については、適用を決定した後、また協議を行って決めていきたいと考えている。駅周辺の県道715号線の道幅の拡大並びに十分な歩道の確保、踏切の歩車分離を行っていただきたい。

本校の子どもにつきましては来年春より通学路が変わるという事で、子どもたちを実際に通学させるために、まず、スクールバスの支援、通学路の改善について市教委に要望したい。

②大志生木小学校区からの意見等

【委員】木佐上小校区の様子をみながら、保護者会を開いている。具体的にはないが、スクールバスは要求しようと。なかにはコミュニティバス、いわゆる地域の方が一緒に乗れるようなものも含めて意見は出ているが、まだ具体的に内容をまとめてない。いろんな意見を汲みながら、木佐上小校区の行く末をみながらやっっていこうと思っている。

木佐上校区は実際に歩いていけるが、我々は条件が違うのでできれば、市教委の方にも実際に歩いてみてほしい。冬にどれだけ風が強いのか、夏はどれくらい暑いのかということなど、実際に歩いて把握してほしい。

③こうざき小学校区からの意見等

【専門委員】9月の木佐上小 PTAの方と市教委の話し合いの中で、幸崎駅前通学路に不安があるという声が多かったとうかがった。現在でも本校の児童、あるいは神崎中学校の生徒も通学や生活の中で利用しており、地域住民の方々の生活にも欠かせない道路でもある。

稲生会長さんとも相談し、同じ内容で自治会と小学校とで要望書を10月2日に市長と教育長あてに提出をしたところである。

要望書の内容は、県道木田神崎線の神崎中学校前バス停からデイサービスふれあいまでの間の路側帯の白線の塗り直し及び路側帯内のグリーン舗装についてである。その後、市民協働推進課と教育委員会で県土木事務所に文書を提出いただいた旨の報告を受けている。

<主な質疑応答>

【委員】未就学児の保護者が統合後の通学状況がわからないため不安を抱いている方がいる。スクールバスについては是非とも利用したいという提案であり、運用方法もわかれば早めに知らせていただきたい。

【委員】スクールバスだけなのか、ガソリン代の補助などはないのか、通学方法は一つだけなのか。どちらかを選択できるという事にはならないのか。

【事務局】小学校であれば4km、中学校であれば6kmの通学距離を超えるお子さんについては、遠距離通学費補助金制度がある。

遠距離通学という中ではどちらかを選べるようにしている。バスの定期券の額を支給するとか、ガソリンの補助をしたりとかしている。行きはガソリン代、帰りはバス代とかいう事もしている。校区の状況によって変わってくるのかなと思う。スクールバスには、路線バスをスクールバスとして利用するという考え方や市が直営でやっていくのかとか、委託してやっていくといった事など、いろんな考え方がるので今後検討していきたい。

【専門委員】学校の通学路という面で安心安全ということを重要視させていただいている。遠距離通学という場合の話で4キロ、6キロという数字もあったが、このような適正配置で地域協議会を立ち上げているなかでは、教育委員会としても地域の特性ということも十分に考慮して今後も検討していきたいと考えている。

【議長】教育委員会もどうする方法があるのかという事を、ある程度出して詰めていく必要があるかと思う。また、子どもさん一人ひとりを考えた時にどうする方法がよいのか、通学の方法と安全性については次回までに木佐上校区と教育委員会、大志生木校区と教育委員会で双方で連絡をとりあいながら、さらに詰めていってもらいたい。

(4) その他

①第4回地域協議会の開催について

②通学に関するアンケートについて

- ・ 次回の地域協議会日程と、児童・生徒の通学方法についての現況を把握するための調査について事務局より説明した。

<質疑なし>

<確認事項等>

- ・ 木佐上小学校の平成27年度からこうざき小学校への統合について。
- ・ 平成26年11月13日（木）の賀来小中学校、神崎小学校視察について。
- ・ 通学の方法と安全性については次回までに木佐上校区と教育委員会、大志生木校区と教育委員会双方で検討を進めること。
- ・ 第4回協議会を11月25日（火）の19時から、こうざき小学校1階ホールで行うこと。

8. 閉会のことば